中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第１５集

長岡II遺跡

東京電力株式会社による鉄塔移設工事に係る埋蔵文化財発掘調査概報

１９９６．１１

群馬県中之条町教育委員会

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第１５集

長岡 II 遺跡

東京電力株式会社による鉄塔移設工事に係る埋蔵文化財発掘調査概報

１９９６．１１

群馬県中之条町教育委員会

序

中之条町は、群馬県の西北部に位置しており、盆地、河岸段丘、丘陵地、山間部と地形の変化に富んだ自然豊かな環境にあり、また、国指定重要文化財である日向見薬師堂や富沢家住宅をはじめとして、県指定、町指定の文化財や史跡に恵まれた町です。

近年、中之条町においても各種開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査が増加しています。今回の調査は、国道３５３号（駅南バイパス）道路改築（改良）事業に伴い、道路予定地内にある鉄塔の移設工事に先立って実施されたもので、調査地からは、奈良時代の住居跡が検出されました。記録保存のための緊急的な調査であるとはいえ、こうした調査により得られた資料が蓄積されていくことで、地域の歴史が明らかにされていくことは、非常に大きな意義を持つと思われます。

最後に、今回の発掘調査の実施にあたりご理解、ご協力をいただきました方々に深く感謝申し上げます。

平成８年11月29日

中之条町教育委員会
教育長　　中澤恒夫

例　　言

1　本書は、東京電力株式会社による鉄塔移設工事の実施に伴い、中之条町教育委員会が実施した、長岡II遺跡の発掘調査概要報告書である。

2　発掘調査は、平成８年６月２１日から平成８年７月８日まで行い、遺物整理及び報告書作成は平成８年８月から１１月にかけて行った。

3　発掘調査および整理作業は、東京電力株式会社の費用負担により実施した。

4　発掘調査および整理作業は文化財指導員（嘱託）小菅昭三郎の協力を得て、社会教育課主事　須崎幸夫が担当した。

5　本書の執筆および編集は須崎幸夫が行った。

6　本調査における記録・出土遺物については、中之条町教育委員会において保管している。

7　調査ならびに本書の編集に際し、下記の方々にご協力をいただいた。
東京電力株式会社　株式会社測研　コーエイ株式会社

8　発掘調査作業員
小渕幸子　清水夏子　高橋正寿　水出波雄

凡　　例

1　遺構実測図中の断面基準線は標高で表し、方位記号は座標北を示す。

2　遺構実測図の縮尺は次のとおりである。
全体図　１／１２０　　住居跡　１／６０

3　遺構・遺物写真の縮尺は統一していない。

目　　次

第１章　調査にいたる経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡 …… 1
第３章　調査の方法と経過 …… 1
第４章　基本層序 …… 2
第５章　検出された遺構と遺物 …… 4
第６章　まとめにかえて …… 7

報　告　書　抄　録

ふりがな	ながおか　いせき
書名	長岡II遺跡
副書名	東京電力株式会社による鉄塔移設工事に係る埋蔵文化財発掘調査概報
巻次	
シリーズ名	中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第１５集
編著者名	須崎幸夫
編集機関	群馬県中之条町教育委員会
所在地	〒377-04　群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091　TEL 0279－75－2111
発行年月日	西暦１９９６年１１月２９日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東緯 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
長岡(ながおか)II遺跡(いせき)	群馬県(ぐんまけん)吾妻郡(あがつまぐん)中之条町(なかのじょうまち)大字(おおあざ)中之条町(なかのじょうまち)字(あざ)長岡(ながおか)	10421				19960621 19960708	121	鉄塔建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長岡II遺跡	集落跡	奈良時代	竪穴式住居跡　１軒	土師器　坏、甕 須恵器　埦、甕	

第１章　調査にいたる経緯

東京電力株式会社では、国道３５３号（駅南バイパス）道路改築（改良）事業に伴い、道路建設予定地内に設置されている鉄塔の移設工事を計画した。移設予定地における埋蔵文化財の有無について照会を受けた町教育委員会が、当該地について、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施したところ、奈良時代の住居跡が確認された。このため、会社側と協議を行い、工事着工前に発掘調査を実施して記録保存の措置を講ずることとなった。

第２章　遺跡の位置及び周辺の遺跡

長岡遺跡は、中之条町の南部を東流する吾妻川左岸の河岸段丘上に位置している。遺跡の東側を胡桃沢川が南流し、吾妻川に注いでいる。長岡Ⅱ遺跡は、中之条町大字中之条町１８７９－１番地に所在し、段丘涯上の緩傾斜地に立地する。標高は３３８ｍ、調査地の現況は畑である。

本遺跡が所在する中之条町の南部では、町の中央部を流れる四万川や、東部を流れる名久田川が吾妻川に合流している。これらの河川の合流点付近には、中之条盆地と呼ばれる山間盆地が発達している。吾妻川をはじめ、四万川、名久田川の流域には、数段の河岸段丘がみられ、これらの段丘上に市街地や住宅地が形成されている。この地域には、主に弥生時代以降の遺跡が点在している。

今回の調査地の南東には、長岡Ⅰ遺跡があり、弥生時代後期から平安時代の住居跡が調査されている。また、本遺跡の東側の中之条駅南地区では、弥生時代後期から平安時代の天神・川端遺跡、古墳時代から平安時代の上原遺跡が調査されている。このほか、吾妻川の河岸段丘上には、弥生時代の法満寺遺跡、古墳時代の法満寺土師遺跡などのほか、段丘と接する丘陵の緩傾斜地には、８世紀の天台瓦窯遺跡がある。また、本遺跡の西方、吾妻川と四万川との合流点付近には５世紀末築造の石の塔古墳があり、この四万川をやや遡ったところには、小川古墳群と呼ばれる４基の古墳がある。

中之条町の東部、名久田川下流域には、七日市、中沢、小塚、桃瀬遺跡などがあり、ＦＡ下の水田址をはじめとして主に古墳時代中期から平安時代までの集落跡が調査されている。また、これらの遺跡の付近には小塚、樋塚などの古墳も見られ、樋塚古墳は６世紀前半と推定されている。

第３章　調査の方法と経過

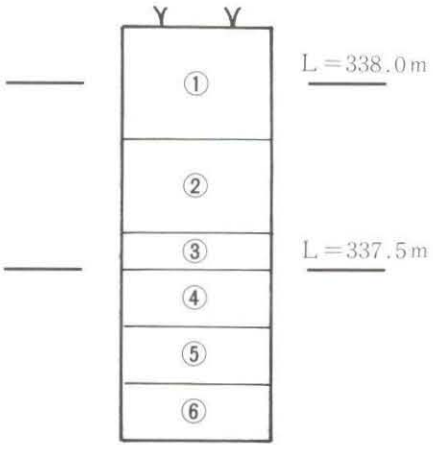
調査予定地における試掘調査は、平成８年６月１０日に実施した。0.2m³のバックホーにより、２ｍ幅のトレンチを設定し、平断面の精査を行った。その結果、トレンチの断面において奈良時代の住居跡が１軒確認された。

試掘調査において遺構が確認されたことにより、調査区を鉄塔建設予定地全域に設定して本発掘調査を実施した。表土の掘削は重機で行い、その後、人力による遺構確認作業を行った。また、国家座標を基に測量杭を適宜設置したほか、水準測量を行い、ベンチマークを設置した。検出された遺構については、覆土除去作業を行った後、平・断面図を作成し、あわせて、モノクロ及びリバーサルフィルムによる写真撮影を行った。遺構平・断面図は１／２０で、調査区全体図は１／４０の縮尺で作成した。調査の終了後には、再び重機により埋め戻しを行った。本発掘調査は平成８年６月２１日から７月８日にかけて実施した。

第１図　遺跡の位置と周辺の遺跡（１/25,000）

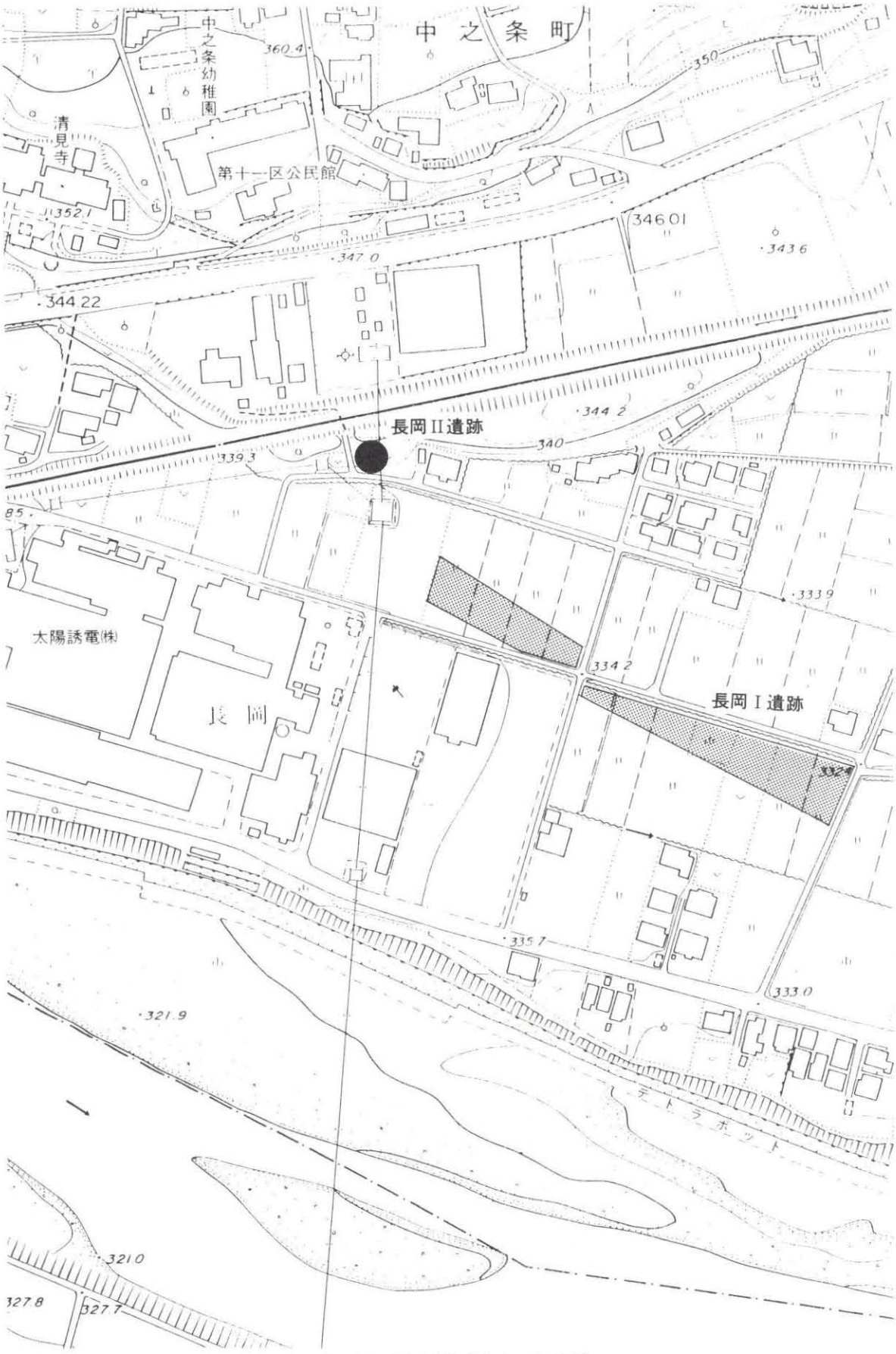
1	長岡遺跡	2	天神遺跡	3	川端遺跡	4	上原遺跡	5	法満寺遺跡
6	法満寺土師遺跡	7	天台瓦窯遺跡	8	石の塔古墳	9	小川古墳群	10	七日市遺跡
11	中沢遺跡	12	桃瀬遺跡	13	小塚遺跡	14	小塚古墳	15	樋塚古墳

第４章　基本層序

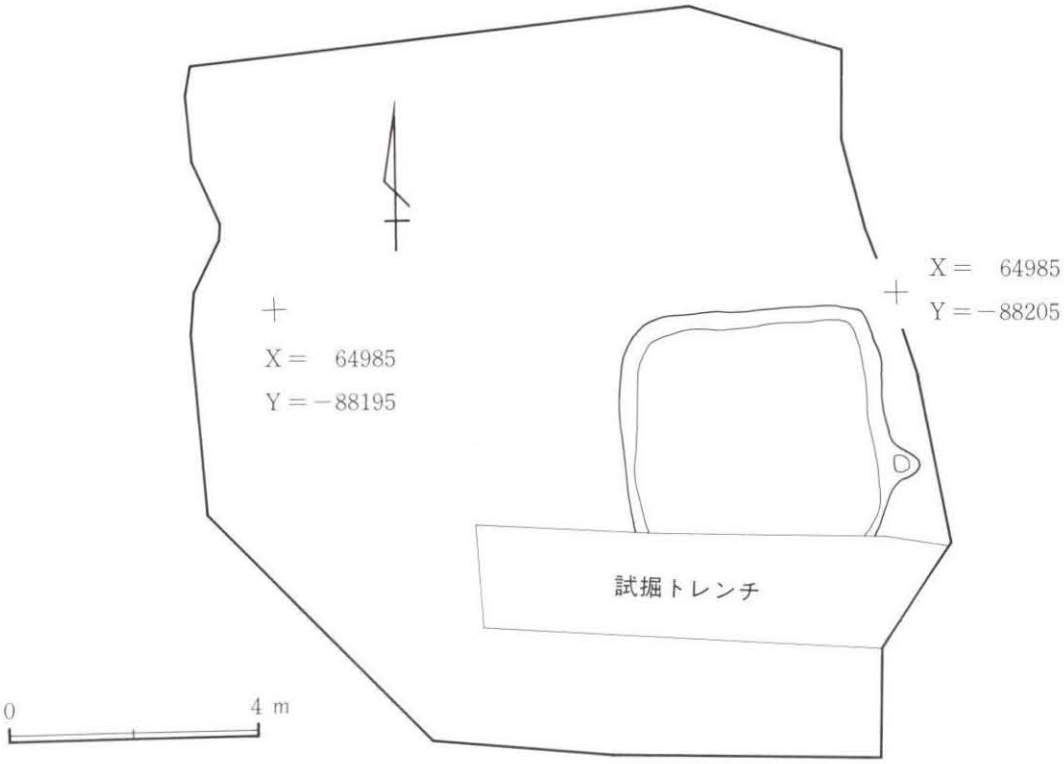


①黄灰色土　浅間Ｂ軽石を含む。１～２cm大の礫を含む。
②黒色土　大小の礫を多く含む。
③黄褐色砂質土　１～５cm大の礫を多く含む。
④黒褐色土　１～１０cm大の礫を微量含む。
⑤黒褐色土　５～１０cm大の礫をきわめて多く含む。
⑥明黄褐色砂質土　大小の礫を多く含む。

第２図　土層柱状図



第3図　調査位置図（1/2,500）



第４図　調査区全体図

第５章　検出された遺構と遺物

１号住居跡

X＝64985．Y＝－88195に位置する。規模は東西間で4.70m、南壁が試掘調査時に削平されたが、平面形はほぼ方形を呈するものと推定される。

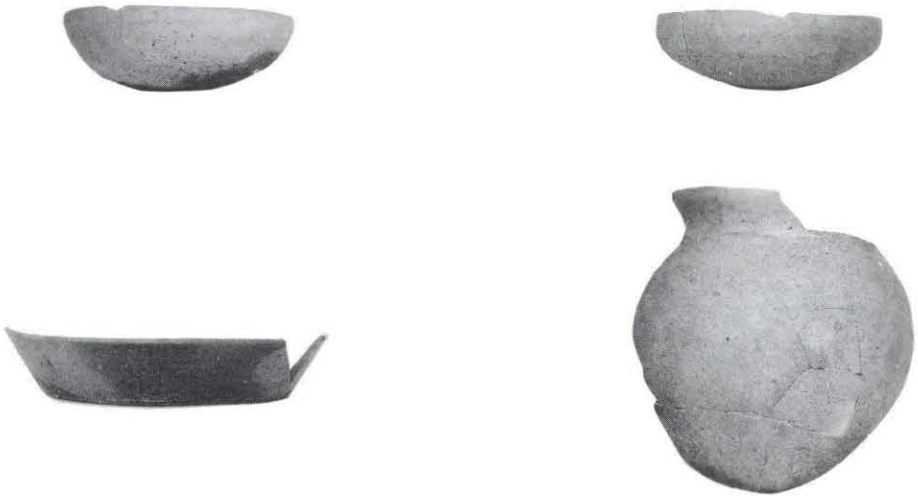
床は、基本土層②層の黒色土中に構築されており、全体的に平担で堅く締まる。壁はやや緩やかに立ち上り、壁高は最大で77cmである。

カマドは、東壁に設置されている。焚口部に深さ18cmの堀込みが見られる。袖はほとんど残存していないが、袖石と補強材として用いられたと考えられる礫が残存していた。

柱穴は確認されていないが、貯蔵穴と見られる浅い堀り込みがカマドの南側で検出された。サイズは直径50cm、深さ15cmである。

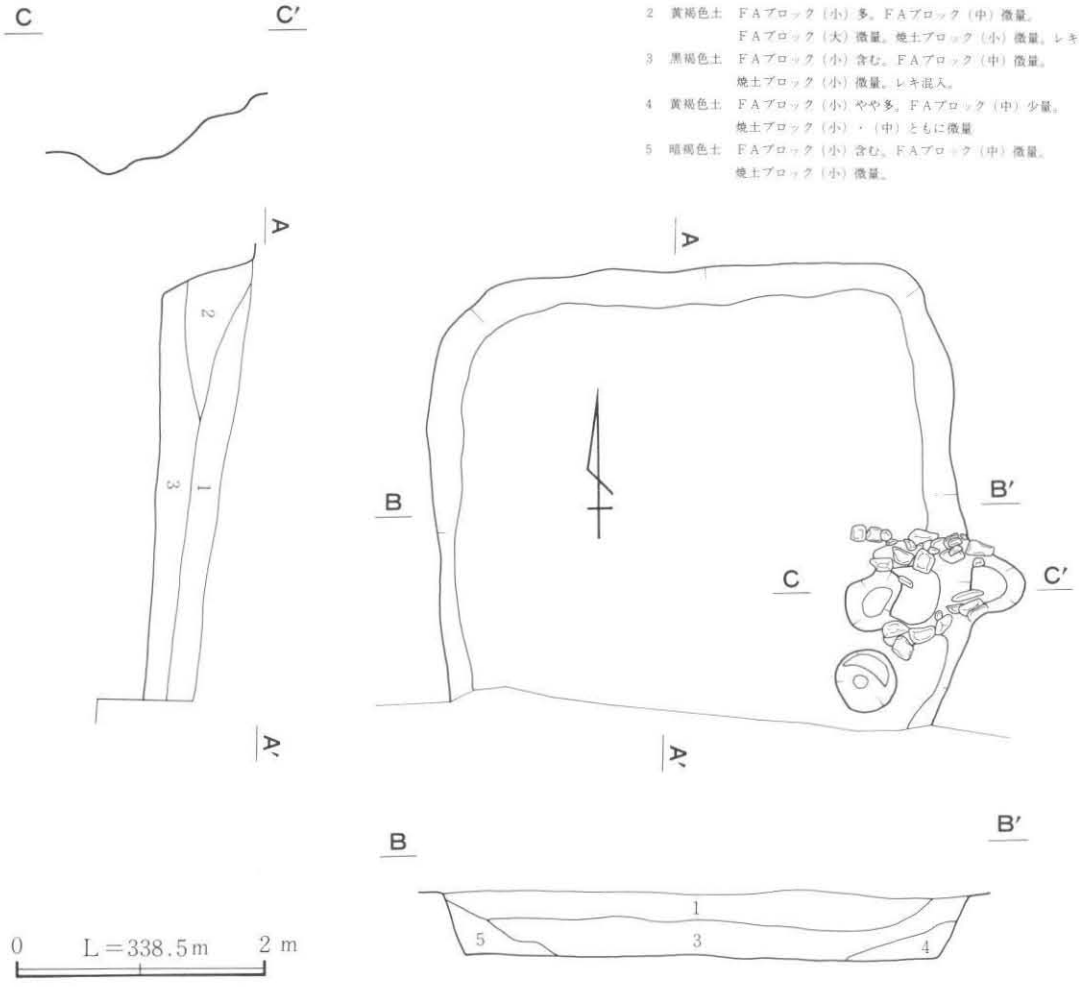
遺物は土師器の坏、甕、須恵器の埦、甕などが出土している。年代は８世紀に比定される。

１号住居跡出土遺物

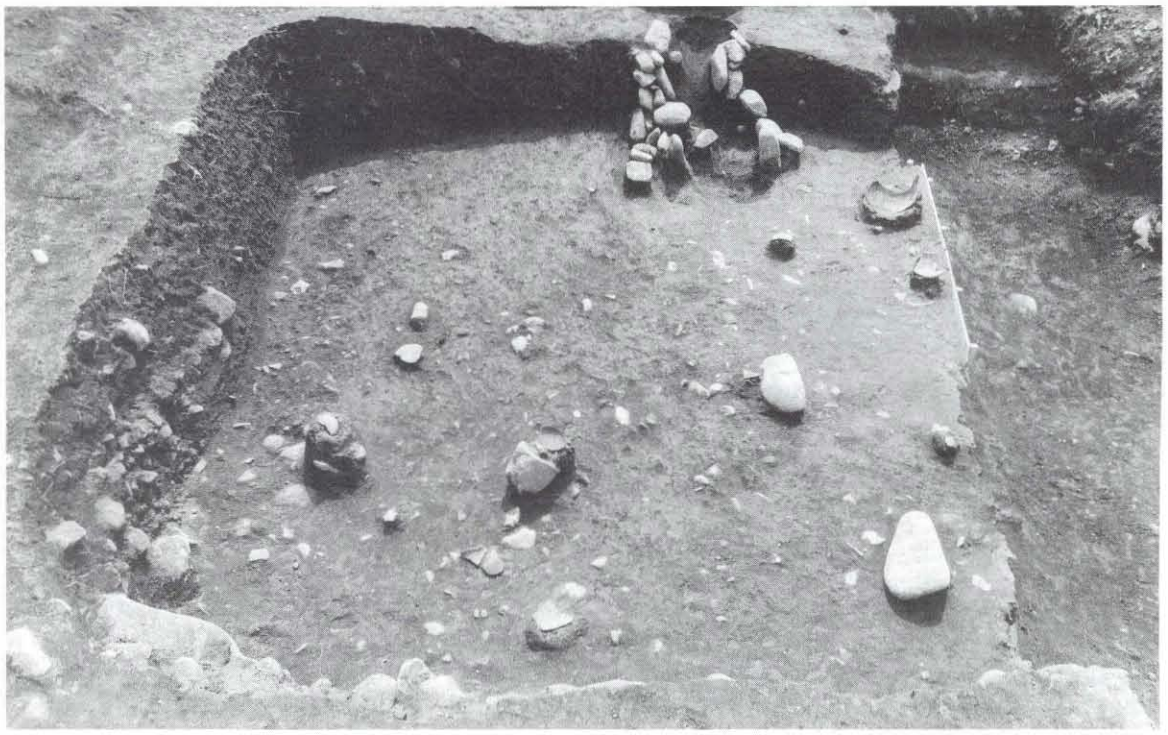


1号住居跡出土遺物

1　暗褐色土　FAブロック（小）やや多。FAブロック（中）少量。
　　焼土ブロック（小）微量。レキ若干。
2　黄褐色土　FAブロック（小）多。FAブロック（中）微量。
　　FAブロック（大）微量。焼土ブロック（小）微量。レキ若干。
3　黒褐色土　FAブロック（小）含む。FAブロック（中）微量。
　　焼土ブロック（小）微量。レキ混入。
4　黄褐色土　FAブロック（小）やや多。FAブロック（中）少量。
　　焼土ブロック（小）・（中）ともに微量
5　暗褐色土　FAブロック（小）含む。FAブロック（中）微量。
　　焼土ブロック（小）微量。



第5図　1号住居跡実測図



1号住居跡遺物出土状況

1号住居跡全景

第6章　まとめにかえて

今回の調査で確認された遺構は、奈良時代の竪穴式住居跡１軒のみであるが、長岡地区においては、本遺跡の南東において、弥生時代後期および平安時代の住居跡が検出され調査されている。また、胡桃沢川を挟んだ東側においては、弥生時代後期から平安時代にかけての集落遺跡である天神遺跡・川端遺跡、古墳時代から平安時代の集落遺跡である上原遺跡がある。伊勢町地区遺跡群と総称されるこれらの遺跡では、総数で５００軒以上の竪穴式住居跡が調査されており、胡桃沢川以東の駅南地区には広範囲に遺跡が展開していることが明らかになっている。

これまでに実施された調査から推測する限り、駅南地区に比べ長岡地区においては、遺構分布が希薄になるようであるが、今後の調査によって、長岡遺跡における集落の変遷・分布状況が伊勢町地区遺跡群との関わりにおいて、明らかにされてゆくことを期待したい。

長岡II遺跡

中之条町埋蔵文化財発掘調査報告書第15集

平成8年11月25日印刷

平成8年11月29日発行

発　行　　群馬県中之条町教育委員会

〒377-04　群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1091

印　刷　　大道印刷工業